

教育ニュース「響学 共動」 No.11

今週の児童川柳

「千羽づる 一羽一羽に
平成 22 年 7 月 20 日

願いこめ」(6年生)

広島市立吉島小学校

本校では今年も、この 16 日に、ヒロシマの心、平和を祈念する心を伝え合う「平和集会」が児童会の企画で行われました。

この集会は、各学年で取り組んだ平和学習の成果を発表する機会でもあります。上記の川柳にあるよう、集会にあたり一人一人の児童は千羽鶴を折り、平和祈念の気持ちを形にしました。会場に千羽鶴が展示され、集会は始まりました。



♪・・・世界中のみんなみんな 明るい笑顔♪。

「アオギリの歌」の歌詞に込められた意味を大切にしながら歌う児童の姿からは、ヒロシマの心を発信しようとする態度がみられました。

集会では、各クラスから「みんなのねがい」をまとめたメッセージが発表されました。

- | | |
|-----|---|
| 1 年 | 「みんなをなかよくあそびます」「がんばって、みんながなかよくなります」 |
| 2 年 | 「ちくちくことばをいわないよ・友だちのことをよくかんがえるよ・なかよくできるせかいにするよ」
「みんなが地球にやさしくするよ・えがおいっぱいせかいにするよ」 |
| 3 年 | 「みんな安心してくらせる世界にするよ」
「みんながやさしくなかよしなクラスにするよ」 |
| 4 年 | 「忘れない八月六日に起きたこと」
「ずっと世界を平和に」 |
| 5 年 | 「かく兵器をなくし平和と笑顔の世界を」
「アオギリはみんなの心、平和の本」 |
| 6 年 | 「戦争や原爆のおそろしさを伝え、争いのない世界に」
「平和をねがう灯火が消える いつも平和である世界に」 |

また、各学年からは、平和学習の成果をまとめた作文の発表もありました。ビデオ教材を視聴することなどを通して、児童が 8 月 6 日の広島の世界に対し、登場する人物や自転車等に自分自身を投影させ対話したようですが、そして恒久の平和を願う、創造する強い意志が、作文に素直にまとめられていました。

例えば、5 年生の作文の結びは、「原子爆弾ではなく、幸せの種を」でまとめられていました。また「夏服の少女」を視聴した 6 年生の作文には、

私は、今まで 5 年間、ふつうに当たり前にご飯を食べ、学校に通ってきました。でも、戦争をしていたころには、それは当たり前ではありませんでした。白いご飯、砂糖や卵はすべて貴重品でした。だから、病気の時や特別の日にはしか食べることができませんでした。学校に行っても勉強などできず、毎日つらい仕事をやらなくては行けませんでした。それに自分たちでつくる夏用の制服も、白い布ではなく茶色や灰色などの地味な色でなければいけませんでした。・・・

そんな毎日を送っていた少女たちにも、将来の夢がありました。・・・それらの夢は一発の原子爆弾のために、叶うことはできませんでした。そして、残された両親は、今も悲しんでいます。(中略)

今、日本は戦争をしていません。しかし、世界には戦争が続いている国がまだまだあります。だから、私は大人になったとき、自分の子どもたちに、戦争の怖さや平和の大切さを伝えていきたいと思います。二度と戦争を起こさないために。

この平和集会での 1 年生から 6 年生までの作文発表ルーンは、いわば平和祈念の心・命の尊さを誓う、訴えるバトラーでもあったように思います。大切に！

もうすぐ夏休みです。元気で充実した毎日を送ってください。またこの間、8 月 6 日(登校日)を迎えます。平和であることの尊さや命の重さなどについて、ご家庭におかれても今一度考え伝え合ってください。